令和2年度
亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略
評価検証報告書

亀山市

総合政策部政策課

【目次】

1. 評価検証の概要 …………………………………… 1
⑴ 評価検証の目的 ………………………………… 1
⑵ 評価検証の流れ ………………………………… 1
⑶ 評価検証の具体的な方法 ……………………… 1

2. 総合戦略の評価検証 …………………………… 5
⑴ 基本事項 ………………………………………… 6
⑵ 総合戦略全体の評価 …………………………… 7
⑶ 基本目標の評価等（検証シート）………………… 8

1. 評価検証の概要

(1) 評価検証の目的

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）に位置付けた各施策の更なる推進に向けた課題の改善を図り、より一層高い効果を発揮させることを目的として、評価検証を行う。

また、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証の考え方に基づき、「数値目標」及び「重要業績評価指標（KPI）」の達成度を確認し、結果重視の検証を行う。

≪国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」より抜粋≫
附論 第1章 まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則
5. 結果重視
施策の結果を重視するため、明確なPDCA メカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善を行う。

(2) 評価検証の流れ

「亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部」での内部検証、外部有識者で構成する「亀山市地方創生会議」での外部検証を行う。また、検証結果については市議会に報告するとともに、市HPで公表する。

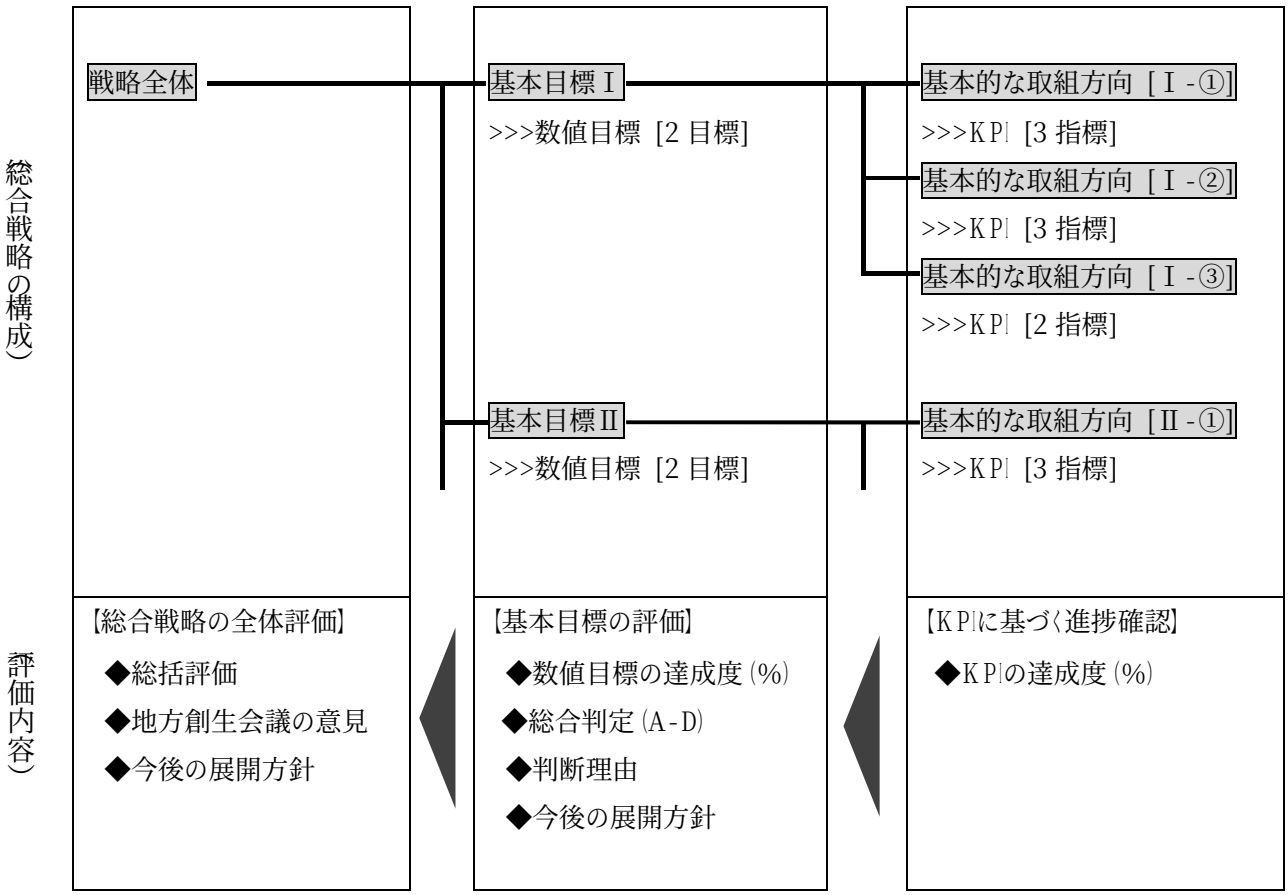
内部検証	亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部
↓	
外部検証	亀山市地方創生会議
↓	
報告・公表	市議会、市HP

(3) 評価検証の具体的な方法

総合戦略の評価検証は、「総合戦略の全体評価」、「基本目標の評価」及び「基本的な取組方向の進捗確認」で構成する。

なお、検証にあたっては、4つの基本目標毎に設定した「数値目標」、及び 10 の基本的な取組方向毎に設定した「重要業績成果指標（KPI）」の達成度を確認するとともに、それらの達成状況等に重点を置いて評価する。

-総合戦略の評価検証（全体イメージ）-



【評価区分及び項目に関する説明】

①総合戦略全体

項目	記述内容
⑴ 総括評価	「基本目標の評価」を踏まえた戦略全体の総括
⑵ 地方創生会議の意見	市の総括評価に対する地方創生会議の意見
⑶ 今後の展開方針	「基本目標の評価」及び「地方創生会議の意見」を踏まえた戦略全体の今後の展開方針

②基本目標

項目	記述内容
⑴ 数値目標の進捗	実績値、達成度
⑵ 基本目標の評価	総合判定（A－D）、総合判定の判断理由
⑶ 今後の展開方針	評価を踏まえた今後の展開方針

【総合判定区分】

A：順調に進んだ　　B：まずまず進んだ　C：少し進んだ　D：進まなかった

【総合判定の基本的な考え方】

原則として、数値目標及び基本的な取組方向毎に設定した「重要業績成果指標（KPI）」の達成度に重点を置き、その他の考慮すべき事項等も勘案して、総合的に判断する。

③数値目標及びKPIの達成度について

目標値に対する実績値の達成度合いを確認するため、達成度を算定する。

<達成度の算定方法>

達成度（%）　＝　実績値　／　目標値　×　100

2. 総合戦略の評価検証

⑴ 基本事項

①戦略の位置付け･目的

本総合戦略は、平成 26 年 11 月に制定された「まち･ひと･しごと創生法」に位置づけられる地方版総合戦略として、「亀山市人口ビジョン」と一体的に策定している。

策定にあたっては、国の「まち･ひと･しごと創生総合戦略」及び、県の「まち･ひと･しごと創生総合戦略」を勘案するとともに、市の最上位計画である総合計画との整合を図っている。

また、第2次総合計画との相互の一体性･整合性を向上させ、関連施策の実効性ある推進に繋げるため、計画期間を延長している。

②戦略の期間

平成 27 年度から令和 3 年度（令和元年度一部改訂）

③戦略の骨格

【施策体系】

（基本目標）		（取組項目）
≪まちの創生≫ Ⅰ まちの魅力や価値を高め、選ばれる都市をつくる	まちのシーン① 訪れるまち	1）魅力ある地域情報の発信 2）地域の魅力の磨き上げ 3）移住･交流の促進
	まちのシーン② 快適なまち	1）機能的な都市づくりの推進 2）魅力ある拠点づくりの推進 3）快適な交通ネットワークの構築
	まちのシーン③ 安全なまち	1）まちの防災力の強化 2）持続可能な社会資本管理の推進
≪ひとの創生≫ Ⅱ 出産･子育てを支え、郷土愛を持つひとを育てる	ライフステージ① 子ども･思春期	1）ふるさとに愛着を持てる教育の推進 2）自分の人生を考えるための教育の推進
	ライフステージ② 結婚･出産	1）出会い、結婚の機会づくりへの支援 2）出産への希望と安心の環境づくりの推進
	ライフステージ③ 子育て	1）魅力ある就学前教育･保育の推進 2）不安なく子育てできる環境づくり 3）仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）の推進
≪しごと（くらし）の創生≫ Ⅲ 若者の未来への希望を応援し、くらしを支える	ライフシーン① 働く	1）魅力ある雇用の場づくりと安定雇用の促進 2）若者の雇用対策の推進
	ライフシーン② 遊ぶ･楽しむ	1）自分磨きができる環境づくりの推進 2）充実した余暇を過ごせる環境づくりの推進 3）若者が交流する機会の充実
	ライフシーン③ 住む	1）快適な住まいに対する支援 2）地域特性を活かした空き家活用の促進
Ⅳ つながり、見守り、助け合える地域社会をつくる		1）自立した地域のまちづくりの支援 2）安心してくらし続けられる地域づくりの推進

⑵ 総合戦略全体の評価

①総括評価

社会増減については、市内企業の雇用環境等社会情勢の影響を受けつつも、未就学児を中心に転入数は増加傾向にあり、5年連続でプラスに推移しているが、自然増減については、出生数が微増したものの、死亡数が出生数を依然として上回っており、自然減が続いている。

令和3年6月に2020年国勢調査の速報値が公表され、本市の人口は前回調査から376人減少した49,878人で、5万人を下回っている。また、亀山市人口ビジョンに設定した将来人口の展望の推計からやや下ぶれし、想定よりも速く人口減少が進行している状況にある。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、観光振興や事業活動、地域活動など地方創生に関する様々な取り組みに打撃を与える一方で、デジタル化による新たな働き方や、地方移住志向の高まりなどが見られている。引き続き、子育て環境の充実を図るとともに、本市への人の流れを創出する取り組みを強化していく必要がある。

なお、地方創生の取組は短期間で効果を発揮するものではないことから、単年度ごとの結果にとらわれることなく、中長期的な展望に立って取り組んでいく必要がある。

②地方創生会議の意見

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、数値目標やKPIの実績値が悪化しているケースもみられるが、単に指標の達成度合いだけを見るのではなく、コロナ禍でどのように改善され、あるいはそれに変わる試みがなされたかも含めて、評価していく必要がある。

これからの時代は、ニューノーマルや新しい生活様式の中で、働き方や暮らし方はもちろん、観光やイベント等のあり方も従来と異なったものとなる。亀山市においてもアフターコロナを見据え、オンラインやリモートなどのデジタル技術に対応し、交流事業の活性化や移住促進などをはじめ各種施策・事業・イベントに取り組む必要がある。

また、コロナ禍では、孤立や孤独が新たな社会問題となっている。居場所や出会いの場の確保に加え、世代や地域を超えた人々の繋がりやネットワークを支援する仕組みづくりが求められる。また、少子化対策においては、保育所における待機児童の減少に向け、利用者が利用しやすい環境を整備していく必要がある。

③今後の展開方針

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は依然として終息が見えておらず、引き続き地域経済や市民生活への影響を見極めながら、必要な支援を実施していく。

また、時代の変化に対応した事業活動の展開や新たなビジネスの創出など、地域経済の活性化に向けた取り組みを進めるとともに、安心して産み育てられる環境づくりをはじめ、移住の促進や関係人口の創出などの「ひと（ヒューマン）」の視点や、DXや脱炭素化を基軸とする世界的な潮流を地域の活性化に繋げる「デジタル」「グリーン」の視点を持って地方創生に取り組んでいく。

併せて、亀山市シティプロモーション戦略を見直し、本市の魅力を市内外へより効果的に発信するとともに、本市への愛着醸成を図ることで、地方創生の推進力の向上に繋げていく。

令和4年度からスタートする第2期市総合戦略の策定に当たっては、こうした方針を踏まえつつ、第2次総合計画後期基本計画の策定と併せて一体的に整理していく。

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（令和2年度）

基本目標	Ⅰ　まちの魅力や価値を高め、選ばれる都市をつくる

①数値目標の進捗

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
社会増減数（転入数－転出数）（人）	43（H22-H26）	-149（H23-H27）	10（H24-H28）	376（H25-H29）	248（H26-H30）	485（H27-R1）	858（H28-R2）		357（H29-R3）	240%
数値目標の説明	5年間の社会増減の合計									
目標値設定の考え方	・平成29年2月改訂の亀山市人口ビジョンの人口展望に基づき、平成27年(4月1日:基準日)から令和2年(3月31日)までの社会増減を5年間の目標として設定 ・計画期間延長後（令和2年3月改訂）の新たな目標値は、既定の目標値の達成に向け引き続き取り組むこととして設定									

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
観光入込客数（人）	261,031(H26)	306,650	241,093	248,902	235,411	213,350	183,001		368,000（R3）	50%
数値目標の説明	対象施設（歴史博物館、玉屋資料館、道の駅関宿、サンシャインパーク、かぶとの森テラス（旧：名阪森林パーク）および石水渓キャンプ場施設）の観光客数									
目標値設定の考え方	・平成27年度（306,650人）に対して、地域の魅力を磨き上げ発信することで、令和3年度までに市内に来訪する観光客を20%増加させることを目標として設定 ・計画期間延長後（令和2年3月改訂）の新たな目標値は、第2次総合計画前期基本計画の成果指標と整合									

②基本目標の評価

【判断理由】	総合判定
本市の社会増減数（5ヶ年の合計）は5年連続でプラスで推移し、本年度は目標値を上回る実績値となっている。依然として外国人が増加傾向にあるものの、日本人においても社会増を維持しており、社会的背景の影響を受けつつ、本市が選ばれている状況にある。こうした社会増の傾向は、雇用情勢等の影響を受けつつも、本市のまちの魅力や快適さを高める取り組みや、積極的なシティプロモーションによる情報発信、移住相談窓口を通じた移住促進等、人を呼び込む施策の成果が表れているものと推察される。 一方、観光分野は、近年、減少傾向にあった観光入込客数が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、大きく減少しており、基本目標の総合判定を「B」とした。	B まずまず進んだ

③今後の展開方針

新型コロナウイルス感染症を契機とした地方移住への関心の高まりを、本市への人の流れに変えていけるよう、引き続き首都圏での情報発信・求心力を高めるとともに、移住につながる関係人口の創出など、これまでの取り組みにない新たな視点も踏まえつつ、本市への移住・定住の取り組みを強化していく。

観光分野については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、感染リスク回避の観点から、インバウンドはもとより国内観光も含めた観光全体のあり方が見直されており、登山、キャンプ等のアウトドア等のエコツーリズムの需要の高まりも見せている。関宿や亀山7座トレイルなど、本市の魅力である歴史文化と自然を生かした観光振興を中心に、アフターコロナを見据えた観光政策を推進していく。

また、こうした取り組みをより効果的に発信し人の流れに繋げていくことができるよう、第2期総合戦略の策定と併せて、亀山市シティプロモーション戦略を検証し、見直しを図る。

④重要業績評価指標（ＫＰＩ）の進捗

	指標	現状値	実績値							目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
まちのシーン①　訪れるまち	シティプロモーション専用サイトへの訪問者数（年間延べ人数）（人）	- (H27)	-	7,834	36,646	68,115	78,613	99,895		100,000 (R3)	99%
	伝統的建造物群保存地区内の街道に面した建造物の修理修景事業の完了率（%）	55 (H26)	56	56.3	56.5	57.3	58.9	59.9		60.0 (R3)	99%
	移住相談後の移住件数（累計）（件）	- (H27)	-	0	0	4	10	19		15 (R3)	127%
まちのシーン②　快適なまち	立地適正化計画の策定	- (H27)	-	計画案の策定	策定	-	-	-		H29.3	100%
	亀山駅周辺の再生（都市計画決定）	- (H27)	-	未完了	完了 (H30.3)	-	-	-		H29.3	100%
	都市計画道路の整備率（%）	58 (H26)	58.0	58.0	58.1	61.9	65.1	65.1		70 (R3)	93%
まちのシーン③　安全なまち	自主防災組織の結成率（%）	84 (H27)	84.0	83.1	84.0	82.1	81.4	81.4		100 (R3)	81%
	公共施設等総合管理計画の策定	- (H27)	-	策定	-	-	-	-		H29.3	100%

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（令和2年度）

基本目標	Ⅱ　出産・子育てを支え、郷土愛を持つひとを育てる

①数値目標の進捗

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
合計特殊出生率	1.58 （H25）	1.47	1.50	1.32	1.55	1.41			1.65 （R3）	85%
数値目標の説明	一人の女性が一生のうちに出産する平均子ども数									
目標値設定の考え方	・ 平成29年2月改訂の亀山市人口ビジョンの人口展望に基づき、近年の上昇傾向が維持するものとして算定した将来値を目標に設定 ・ 計画期間延長後（令和2年3月改訂）の新たな目標値は、これまでの目標値の達成に向け引き続き取り組むこととして設定									

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
若年世代の未婚率（%）	男性 [20-29歳] 65.9 [30-34歳] 44.5 女性 [20-29歳] 48.3 [30-34歳] 24.7 （H22）	男性 [20-29歳] 67.7 [30-34歳] 41.9 女性 [20-29歳] 51.1 [30-34歳] 26.9	令和2年度の国勢調査にて把握						男性 [20-29歳] 64.0 [30-34歳] 40.0 女性 [20-29歳] 45.5 [30-34歳] 24.0 （R2）	93%
数値目標の説明	「25～29歳」、「30～34歳」の人口に占める未婚者数の割合									
目標値設定の考え方	・ 県内で20代後半が8位、30代前半が18位である男性未婚率を上位5位以内、両世代ともに県内4位である女性未婚率を上位3位以内に入る数値として目標を設定。									

②基本目標の評価

【判断理由】
将来を担う子どもたちの地域への愛着醸成に向けては、各学校において地域と連携した取組が進められるとともに、高等学校と連携した取り組みの推進等を着実に進めている。
子育て関連においては、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて積極的に取り組む企業の表彰制度を創設や、放課後児童クラブにおける待機児童ゼロの維持など、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいる。
一方、保育所の待機児童数は依然として高く推移するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、職場体験学習や婚活支援事業が中止となり、施策推進に支障も生じている。
令和2年度の出生数は359人で、前年度と比べ微増したものの、KPIの目標値を大きく下回っており、合計特殊出生率も数値目標と乖離していることから、基本目標の総合判定を「C」とした。

総合判定：C（少し進んだ）

③今後の展開方針

出産・子育ての希望が叶えることができるよう、引き続き、子育て世代包括支援センターによる妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供するとともに、保育環境の充実やワーク・ライフ・バランスの推進など、子育てしやすい環境づくりを引き続き進める。
特に待機児童対策については、低年齢児の受入規模の拡大など早急な対応を求められるケースや、市全体で就学前教育・保育機能の充足を図っていくケースなど、短期的に効果を発揮させる視点と抜本的に課題解消を図る視点を区別しながら、就学前教育・保育施設の再編を計画的に進め、適切に受入機能を確保していく。

④重要業績評価指標（ＫＰＩ）の進捗

	指標	現状値	実績値							目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
ライフステージ①　子ども・思春期	全国学力学習状況調査において「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答する児童生徒の割合（%）	小6：32.6 中3：30.0 (H27)	【小6】 32.6 【中3】 30.0	-	【小6】 34.7 【中3】 28.1	【小6】 31.1 【中3】 37.3	【小6】 44.9 【中3】 43.2	- (未実施)		小6：51.0 中3：48.0 (R3)	-%
	高等学校等と連携した取組事業件数（累計）（件）	- (H27)	-	0	4	11	16	20		25 (R3)	80%
	職場体験学習生徒アンケートにおいて「あなたにとって進路や将来について考える機会になった」という肯定的な意見の割合（%）	82 (H27)	-	83	88	92	85	- (未実施)		90 (R3)	-%
ライフステージ②　結婚・出産	婚活支援事業により出会いを得た人数（累計）（人）	- (H27)	-	61	115	200	249	249		500 (R3)	49%
	年間出生数（人）	458 (H26)	430	414	371	411	343	359		465 (R3)	77%
ライフステージ③　子育て	「せいかつちゃれんじシート」に取り組んだ家庭の割合（%）	62 (H26)	64	59	68	56	58	54※		80 (R3)	68%
	保育所・放課後児童クラブの待機児童数（毎年4月1日）（人）	[保育所] 9 [放課後] 0 (H27)	[保] 9 [放] 0	[保] 6 [放] 0	[保] 6 [放] 0	[保] 3 [放] 0	[保] 6 [放] 0	[保]15 [放] 0	[保]12 [放] 0	0 (R3)	-33%
	男性の育児休業取得に積極的に取り組む事業所への支援策の構築	- (H27)	-	検討中	検討中	検討中	検討中	構築		R3.3	100%

※取組の一本化に伴い、「お茶の間10選（実践）に取り組んだ家庭の割合」を表示

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（令和2年度）

基本目標	Ⅲ　若者の未来への希望を応援し、くらしを支える

①数値目標の進捗

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
若者の定住意向（「ずっと住み続けたい」、「できれば住み続けたい」と回答する20歳代以下および30歳代の市民の割合）（%）	73.5 （H27）	73.5	-	-	79.7	-	72.6		80.0 （R2）	91%
数値目標の説明	「ずっと住み続けたい」、「できれば住み続けたい」と回答する「20歳代以下」および「30歳代」の市民の割合									
目標値設定の考え方	・ 64.8%となっている「20歳代以下」の定住意向を70%にまで引き上げ、若者世代（30歳代以下）の定住意向を75%とすることを目標に設定 ・ 計画期間延長後（令和2年3月改訂）の新たな目標値は、高い定住意向を維持することを目標として設定									

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
数値目標の説明										
目標値設定の考え方										

②基本目標の評価

【判断理由】
令和2年度は、亀山・関テクノヒルズに1社が進出決定するとともに、2社が操業を開始、1社が令和3年度の操業に向けて建設工事に着工するなど、亀山・関テクノヒルズの新10区画に6社（計9区画）の進出が決定し、順次操業も開始され、様々な業種の企業の集積が進むとともに、市産品の発掘や販路拡大を切れ目なく支援する市独自の地域ブランド認定制度「亀山ブランド」を構築するなど、地域経済の活性化と雇用の確保に向けた取り組みを進めることができている。また、住宅取得への支援をすることで、子育て世代の定住に繋がっている。
一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、かめやま若者未来会議の活動が制限されたほか、講座の参加者数や運動施設の利用率等が低迷しており、数値目標である「若者の定住意向」も割合が下降していることから、基本目標の総合判定を「B」とした。

総合判定

B

まずまず進んだ

③今後の展開方針

継続して広域的なネットワークを有する県や産業団地の開発主体等との情報共有など連携を図り、立地検討企業の把握やスピード感を持った企業対応に努め、幅広い業種の企業を誘致するとともに、今後においても安定した雇用を確保するため、亀山・関テクノヒルズに次ぐ産業基盤の確保に向け、調査を進めていく。併せて、本市で創業を希望する人が創業にチャレンジできる環境の充実や、「亀山ブランド」による市産品の発掘等を通じて、新たなビジネスや雇用の創出を促進し、地域経済の活性化を進めていく。
また、新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、事業者の事業継続に必要な措置を講じるとともに、アフターコロナを見据えて、時代の変化に対応した事業活動を促していく。

④重要業績評価指標（ＫＰＩ）の進捗

	指標	現状値	実績値							目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
ライフシーン①　働く	企業立地件数（累計）（件）	2 (H27)	2	4	4	5	5	6		10 (R3)	60%
	奨学資金等に対する支援制度の構築	- (27年度)	-	検討	関連支援制度を構築	-	-	-		H28.12	100%

ライフシーン②　遊ぶ・楽しむ	公民館講座、行政出前講座の直近3年間の受講者数の平均（年間延べ人数）（人）	23,165 (H24 -H26)	24,103 (H25 -H27)	24,615 (H26 -H28)	22,468 (H27 -H29)	21,417 (H28 -H30)	23,130 (H29 -R1)	17,931 (H30 -R2)		27,400 (R1 -R3)	65%
	市内運動施設の年間利用率（%）	74.6 (H26)	72.0	71.9	72.1	74.1	75.6	70.3		78.0 (R3)	90%
	かめやま若者未来会議の登録者数（累計）（人）	- (H27)	-	35	43	50	56	59		60 (R3)	98%

ライフシーン③　住む	若者世帯向け住宅取得支援制度の構築	- (H27)	-	検討	関連支援制度を構築	住宅取得支援制度を構築	-	-		H28.12	100%
	空き家情報バンク登録物件の契約成立数（累計）（人）	4 (H27)	4	8	9	11	14	23		30 (R3)	77%

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（令和2年度）

基本目標	Ⅳ　つながり、見守り、助けあえる地域社会をつくる

①数値目標の進捗

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
まちの住みよさ（「住みやすい」、「どちらかと言えばすみやすい」と回答した市民の割合）（%）	72.9（H27）	72.9	-	-	70.0	-	74.6		78.5（R2）	95%
数値目標の説明	「住みやすい」、「どちらかと言えば住みやすい」と回答した市民の割合									
目標値設定の考え方	・ 現在の調査で、「どちらとも言えない」と回答した市民（17.2%）のうち、3分の1の市民が住みやすいと回答することを目標に設定 ・ 計画期間延長後（令和2年3月改訂）の新たな目標値は、高い定住意向を維持することを目標として設定									

項目	現状値	実績値							目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
数値目標の説明										
目標値設定の考え方										

②基本目標の評価

【判断理由】
全ての地域まちづくり協議会において地域まちづくり計画の策定が完了しており、地域予算の交付による財政的支援やアドバイザー派遣等の人的支援、コミュニティ・ソーシャル・ワーカーによる助け合い・支え合いの仕組みづくりへの支援、かめやま人キャンパスの開講による地域課題解決に向けた人材の育成など、「地域まちづくり協議会の自立した地域まちづくり」を促進することができている。
また、地域での健康づくり活動の定着を担う「健康づくり応援隊養成講座の修了者」が大きく拡大し、目標値を上回った一方で、数値目標である「まちの住み良さ」については前回調査から上昇したものの目標値を達成していないことから、基本目標の総合判定を「B」とした。

総合判定

B

まずまず進んだ

③今後の展開方針

地域まちづくり協議会による自立した地域まちづくり活動の促進に向けて、引き続き、担い手の発掘・育成を目的とした研修を行うとともに、アドバイザー派遣や地域予算制度による財政的な支援等を行い、それぞれの地域まちづくり計画に基づいた主体的な活動が市全域で展開されるよう取り組んでいく。
健康づくりについては、健康マイレージ事業の実施や健康づくり応援隊の養成など、引き続き個人・地域での健康づくり活動の促進に取り組むとともに、各種検診や予防接種の受診率向上、糖尿病の重症化予防等を図り、市民の健康寿命の延伸に繋げていく。
また、地域や家庭で抱える課題が多様化・複雑化する中、属性や世代を問わない包括的な相談支援や、社会とのつながりを作る支援、世代や属性を超えて交流できる場や居場所の確保など、重層的な支援体制の構築に向けた取り組みを進め、つながり、見守り、助けあえる地域社会の形成を目指す。

④重要業績評価指標（ＫＰＩ）の進捗

	指標	現状値	実績値							目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
―	まちづくり計画を策定した地域まちづくり協議会の数（累計）（組織）	0 (H26)	3	4	12	22	22	22		22 （R1）	100%
	健康づくり応援隊養成講座の修了者数（累計）（人）	72 (H26)	99	121	121	158	158	255		250 （R3）	102%